

令和元年度 第2回学校運営協議会 記録

日時： 令和元年 11月 15日（金）第1部 公開授業（5・6限）第2部 学校運営協議会（14:30～15:30）

場所： 大阪府立布施北高等学校 校長室

出席者： 学校運営協議会委員5名、校長、教頭2名、事務長、首席2名、教諭1名

1 会長挨拶

- ・昨今の教育課題（公立より私学の方が少子高齢化に危機感を抱き、学校行事では地域連携を重視している等）

2 校長挨拶

3 事務局より ・選定教科書の承認

4 学校の現状報告（校長・首席より）

【教員の授業力・魅力ある学校・教員の資質向上のための体制づくりについて】

- ・学習意欲が低く学びの意義を把握できない生徒が多い。一斉授業で理解度の違う生徒を教える難しさがある。
- ・生徒指導と教科指導のバランスが難しい。
- ・教員の年齢が若い分授業の工夫における未熟さがある。
- ・生徒による授業アンケートや管理職による授業評価を実施している。
- ・学習指導要領が改定され、令和4年度から全面実施となる。人工知能（AI）の進化や情報化グローバル化の加速的進展による予測困難な社会を生き抜く力を育むことが目標。「何を教えたか」より「何ができるようになるのか」が重要。
- ・ミドルリーダー育成のために、教育庁の「育成支援チーム」事業を活用。
- ・将来構想企画会議、授業力向上委員会等の取組。

5 委員からの意見聴取

【教員の授業力について～公開授業を見て～】

- ・先生や生徒が一生懸命頑張る姿が大変良かったが、やや型にはまった内容。授業には冒険と夢が必要。10年後、20年後を担う若者を育てるという観点がほしい。
- ・欠席者が目立つ。「キャリア基礎」は本来希望や元気がわいてくる授業だが、全体的に説教じみていた印象。頑張る卒業生の物語等、生徒のイメージをかき立たせるような授業をしてほしい。教員2人体制は良い。
- ・ICT活用が進んでいる。先生と生徒の年が近い言葉のキャッチボールが行われていて楽しそうだった。

【魅力ある学校づくりについて】

- ・自信のない生徒が多いので、自信を深める経験を重ねて生きる力をつけてほしい。生徒さんは地域の宝。
- ・地域と連携して様々な生き方を知る等、先生方が社会経験を積む場を、学校として考えた方が良い。地域が協力できることは多いので、学校も求めてほしい。デュアルシステムは先生の社会経験にも繋がっている。
- ・公教育とは何か。学校に行く必要があるとすれば、人と出会えるから。デュアルなどで様々な人と関わる中で、多くの出会いや学びがある。
- ・布施北の強みや積み上げてきた資源（デュアルなど）をいかすことが大切。生徒保護者・地域・学校が役割分担するというよりは、3者を貫く感覚を共有することや議論することが大切。
- ・自社では「笑顔につながるモノづくり」をスローガンに据え、10年後の会社や自分はどうあるべきかを考えている。学校も「行きたくなる学校」をスローガンに掲げ、そのためにはどうするべきかをずっと議論してみてもいい。

6 まとめ

- ・将来の自分を想像して高校を選んでもらうために、布施北としての魅力をさらに押し出していくべき。
- ・積み上げてきた資源を大切にしながら地域連携をさらに進めていく。